創造的な子どもの姿と教師の援助

2018年度 武蔵野東第一·第二幼稚園

はじめに

社会が急激に変化していく時代に生きる子どもたちには、主体的に環境に関わりながら自ら課題を解決していく力や、新たな発見を取り入れていく柔軟性などが必要とされる。

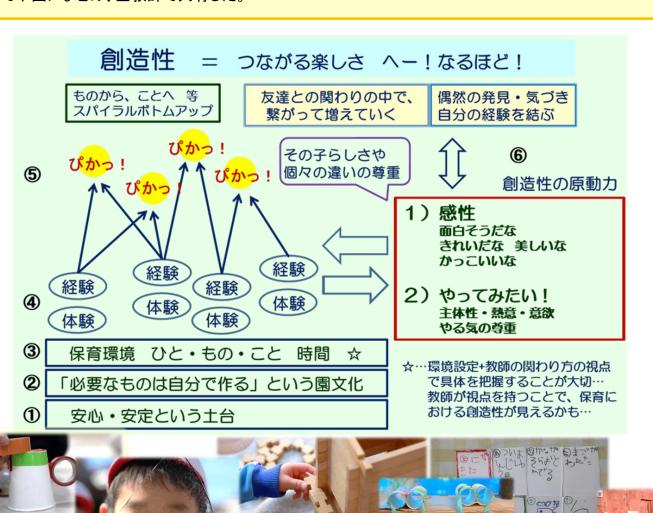
そのため、幼児期において育む大切なことの一つに「創造性」があるのではないかと考えた。

方法

2017年度の教育重点を「創造性を育む」とし、教師全員で「創造的な子どもの姿」を捉えたエピソードを持ち寄って分析し、本園で捉える「創造性」についてまとめた。2018年度は、発達年齢ごとの「創造性の育ち」と、教師の援助や環境構成について考察しながら、創造性を育むためのよりよい環境について探っていく。

本園の捉える創造性

一人一人の教師が"創造的だ"と感じた子どものエピソードを収集し、本園の捉える「創造性」について下図にまとめ、全教師で共有した。



創造的な子どもの姿が読み取れるエピソード









創造性の育ちと環境と教師の援助~造形活動の視点から~

子どもの造形活動に視点をおいてエピソードを収集し、年齢ごとにみえる「創造的な姿」と「環境の用意と教師の援助」についてまとめた。

		44少	集中	0.5
AT 349	もの	年少 〇同じ遊びを繰り返すなかで、偶然の発見を 楽しむ。 〇いろいろな素材に触れて親しむ。	○いろいろな無材を遊びに取り入れながら、 道具や教材の使い方や特性を知る。 ○身近な歳材を使って作ったことのあるもの を作って楽しむ。 ○必要な素材を選んでイメージを形にする楽	●☆ ○素材や道具の特性がわかり、遊びに取り 入れながら、特性を活かす面白さを感じる。 ○素材に合わせて道具を選ぼうとする。 ○作りたいもののイメージを調べて具体的に したり、必要な素材などを考えたりする。
	ひ논	の身近にいる数額に親しみをもつ。 ○数額と一緒にいろいろなものを見立てて遊 ぶことを乗した。 ○数額や女達と一緒に乗材を使って遊ぶこと を乗しむ。	しきを味わう。 〇友 漢上間しものを作って一緒に遊ぶことを 楽しむ。 の年 長児の作ったものや作っている姿を見 て、素材の組合せや特性を知り、新たな発見 を楽しむ。 〇友連や教師に作ったものを見せたり、遊び に誘ったりに書がを感じる。	○自分の考えを伝える業上さを感じる。 ○みんなで力を含わせて作る楽しさを味わう。 ○女達のアイディアと合わせたり、譲ったり、 がり合ったりできない経験もする。
	環境	○変心して遊び締められるように、絵本や積 み末、粘土などの道具や素材の置き場所を 決めておく、 ○無材にたっぷりと親しめるように、同じ無材 をたくさん用意しておく。 ○危険な箇所を取り除いたり、テープで覆っ たりして安全に配慮したものを用意する。	○必要なものを選びやすいように、子供と一 の必要なものを選びやすいように、子供と一 タイメージしたものをすでに作り始められるように会近な選束や場を用意する。 ○作ったものを終ったい置いとする場を用意 し、互いに見合ったり、遊びの続きがしやすい ようにしたりしておく。	○年間を通して置く選集や資料などの場を え、子供たちが必要に応じて取り出したり、 億や片付けを自分たちでできるようにする ○集まった業材は分け方を子供たちと相談 し、遊びに取り入れられるようにしておく。
	援助	○作る楽しさや書びなどを子供と一緒に感じたり、実感したりする。 たり、実感したりする。 ○作りたなるようなものを飾ったり、子供た ちの目の前で作ったりして、様々な飲材や奏 材に触れるきっかけづくりをしていく。	〇二つ二選びのイメージが共通になったり、広 がったりするようなアイテムを選びに提案して がったりするようなアイテムを選びに提案して も取り入れ、友達と一緒につこっ選が任業間か る楽しさを感じられるようにする。(券司屋の はちまき、レストランのテープルウロス、動句 の家など) のなど) が成れるよう、共感したり、認めたりする。	○みんなに自分の悪いや考えを伝える楽 を味わえるように共感したり認めたりして捜 する。 ○一人一人のアイディアがわかるように書 出したり、指示したり、整理したりして、みん で共有しやすいようにする。
後期	もの	○イメージしたものを集材の簡単な組み合わせて形にしていく楽しきを感じる。 し自分の作っためいこ愛着を持つ。 ○件る書びを感じ、同じものを作ううとする。 ○自分で作っためるたりにし、それを使って遊ぶ楽しきを感じる。	○作ったもので遊びながら、さらにイメージを 広げたり、必要になったりしたものを作ろうと する観動にエナ、リード、服、家など、〇 〇作りたいもののイメージが具体的になり、本 物に近づけようとしたり、空動のイメージを 現しようとしたりでう。 〇いろいるなアーブや闘などの数材を知り、 器用に扱うようになる。	○東村の特性を活かして試したり、工夫しげ りしながらイメージを実現していく面白さを わう。 ○イメージを実現するために必要なことや2 記載に感じたことなどをいうかったなり強でき べるなどして、試行錯誤を繰り返す。
	ひと	○教師や友達と一緒に集材を使って遊びな がら、真似をしたり、同じとを繰り返したり して楽しむ。 ○作ったものを教師や友達に見せたり、認め られたりして書びを敷しる。	○友達の作っているものへの関係が高まり、 認めたり、比較したり、国っている様子を知り 別けたりする。 ○作ったものを使って友達と数人でやりよりし で追ぶことを楽しんだり、遊びのイメージを広 げて協力して必要なものを作り進めたりする。	○友達と出し合った考えから新たなアイデアを生み出したり、真いの経験したこと含むたりし、有い理念も面自さきなかつ。 のみんなと一緒に製作するなかで自分の情勢を見つけて取り組むことを実した。 ○見温しをもって重いに声を掛け合いなが 別がに取りませた。 のみんなで作り上げる書ひと達成感を友達 場に成わる。
	環境	○作りたいものをイメージできるような 歯材を 手に取りやすいように色 や那で分けるなどし て用意する。	○子供の遊びの展開を見ながら必要になりそうなものを取り出しやすいようにしておく。 クイメージルにとを形にするために、提いた リストラースを提出するかったが、選いた リストラースを選が着があった。 は、一般を選が着があった。 などを手に取りやすいように用塞しておく。	○それぞれの役割ややりたいことに応じて 作り進めやすいように場を分けたり、時間の 節整をたいまする。例の会話などから、次 ○整件の様子や「例の会話などから、次 と愛になる無材や道具を取り出しやすいよ にしておく。
	援助	とを捉え、それに見合った素材を用意したり、	○それぞれのイソージや考えを遊びの様字から提えたり、観恵取ったりして教師が言葉にすることで、根中の遊びのイメージがわかってみるとを合わせたり、遊びを広げたりするきっかけつびしをしていく。 ○作ったコマの遊び場や、東の東康、動物のななど、作ったものが支援にもわかり大切に	役割がみんなで共有しやすいように、掲示

まとめ

創造的な子どものエピソードを 考察し、まとめていくと、創造性を 育む上で大切になることは、幼 児期に大切にしていること(カリ キュラム)と、よく相似していること がわかった。それは、常に幼児 教育において育みたい子どもの 姿や子どもへの願いなどを見つ め、見直していくことで、時代に 必要な素質について考えること を大切にしてきたからであろう。

そして今、幼児期に創造性を育むことが大切なことの一つだと改めて感じた。

引き続き、子どもたちの今の姿をしっかりと見つめて、創造性を育むための実践を進めていきたい。



